

# まちづくりあいかわ

く歴史的資源を活用した地域活性化の活動報告く

## 「立浪会ミニ公演 清水家」実施報告

— 57号 —

発行所 佐渡市相川支所  
〒952-1592  
佐渡市相川栄町27番地  
TEL 0259(74)3111(代)  
FAX 0259(74)2551

今年の7月から「NIPPONIA佐渡相川金山町清水家」に併設する相川下町交流ロビーで開催してまいりました。「立浪会ミニ公演」が10月25日をもつて終了いたしました。おかげさまで、全20回の公演に延べ367名の方からご来場いただきました。

清水家にご宿泊のお客様だけではなく、相川に訪れた観客の方や、お子様の夏休みに合わせて帰省されたご家族連れの方々、そして地元の方々からもお越しいただきました。少しばかりではありますが、町の中に賑わいの場所を提供することができました。



立浪会の方からご指導いただきて“佐渡おけさ”をみんなで輪踊り

立浪会ミニ公演だけではなく、そのうちの9回はJTBさんのツアーのお客様も受け入れて立浪会の皆さんから「指導いただける佐渡おけさ体験」も行いました。体験コーナーでは、観光のお客様や地元の方々など一緒になつて狭いロビーレンジで佐渡おけさの輪踊りを行いました。

## 大山祇神社「旧社務所」 正式オープン延期のお知らせ

本紙8月号で大山祇神社の旧社務所の正式オープンを10月で調整中とお知らせしましたが、周辺環境整備を、より丁寧に行うこととしたため、来春に正式オープンする方向でさらに整備を進めることとなりました。

(相川車座 雨宮)

この分散型ホテルには、相川地区にご縁のある方でご宿泊いただいた方も多いです。一方で自身のルーツを探して旅をされていました。ご宿泊された方が子どもの頃、お父様が佐渡金山でお仕事をされていて、その時の佐渡相川の思い出が忘れられず、ご自身のお子様を伴ってご宿泊されました。子どもの頃に佐渡おけさを踊った時のことと思い出し、とても感激しておられました。余談ですが、このお客様が実家探しをしている途中に、たまたま道でお会いした相川在住の方から親切にしていただきたとのこと。その体験を嬉しそうに話され、大変感激されているご様子でした。このような地元の方とのふれ合い、ちょっとした嬉しい体験や出会いが、相川へまた来ていただけるリピーターを増やしていくことにつながると思います。

今回の立浪会公演は10月末で終了いたしましたが、来年も引き続き行う予定としています。この企画に限らず、相川が昔から持っている魅力を伝え、地元の方々と相川へ訪れた方々とを繋ぐ場を作り、少しでも町の中に賑わいの場所を作つたいきたいと考えていますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

(相川車座 雨宮)

# あいかわハロウインパーティー2025 開催報告

## 開催報告

10月12日（日）、佐渡國相川あきんど会の主催で、相川天領通りにて「あいかわ ハロウインパーティー2025」を開催しました！秋の夜長を彩る恒例イベントとして、今年もこどもからおとなまで多くの方が参加し、通り全体が笑顔と仮装でございました！ ご協賛くださった皆様、誠にありがとうございました！

## ▼コスプレコンテスト



## おとな部門 優勝 ディズニー ヴィランズ



コスプレコンテストに参加してくださった皆様

## ▼ハロウインマーケット

佐渡総合高校ビジネス・情報系列の生徒による「こども縁日」も大人気！ステーパーボールすくいなどの昔ながらの遊びや、ボーテトの提供などを通してこどもたちの笑顔があふれました。

## ▼ハロウィンマーケット

あきんど会飲食店やキッチンカー、ハンドクラフト作家さんなどによる「ハロウィンマーケット」も同時開催。クレープや焼とり、雑貨やアクセサリーなど、個性豊かなお店が並び、来場者の皆さんには食べ歩きや買い物を満喫しました。



キッチンカーも出店してもらいました



キッチンカーも出店してもらいました

▼豪華景品をかけたじゃんけん大会も開催！

コンテスト後には、誰でも参加できる「じやんけん大会」も行われました。こどももおとなも一緒に盛り上がり、勝ち残った方には地元協賛店などからの豪華景品がプレゼントされました！会場全体が笑顔と歓声に包まれ、大盛り上がりとなりました！



会場全体でじゃんけん大会！

▼こども縁日

当日は少し肌寒く、時折雨が降る天候にも関わらず、相川のまちに多くの笑顔と笑い声があふれ、地域全体が温かい空気に包まれました。来場くださった皆さま、出店・出演・運営にご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました！

来年もまた、相川のまちでお会いしまし



#### ハンドクラフトの商品



## スーパーボールすくい

# 地域おこし協力隊伊藤幹太の相川商人図鑑

Part 5

## 「パーラーつるや」、柔軟な経営と挑戦で長く続けたい、

1975年(昭和50年)創業の「パーラーつるや」は、相川地区で長年愛され続ける老舗店舗。「相川高校の学生に、安くてお腹いっぱいになつてもらいたい」そんな思いで、初代店主がお店を始めました。

現在、お店を切り盛りするのは、二代目の真藤幸雄(しんとうゆきお)さん。高校卒業後、大阪の調理師学校で腕を磨き、21歳で佐渡に帰郷。火事で全焼した店舗を建て直し、20年以上に渡つて厨房に立ち続けています。名物「肉スパ」は、先代が学生時代に夜間の調理師学校へ通つていた頃、アルバイト先のホテルで出していた料理をヒントに考案された一品。当時は高価だった牛肉を、より手の届く豚肉に変えて提供したのが始まりです。今では、No.1人気の「肉スパライス」と、No.2の「肉スパライスカレー」が看板メニュー。



お店の名物 「肉スパ」

とあるローカル著名人が肉スパライスをSNSで紹介したことで、ときつかけに、島外からも多くのお客様がその味を求めて、訪れるようになりました。

「肉スパ」の味の決め手は、みりんとしょうゆ。スペゲッティ(粉チーズを振る)と豚肉などの具材を別々に炒め、仕上げに甘いみりんと甘いしょうゆを合わせるのがポイント、どこか懐かしい洋食の香りが広がります。常連さんの間では、裏メニューの「肉スパカツカレー」や「エビスパカツ」なども人気。その日の気分で、"自分だけの肉スパ"を楽しむお客様も多いそうです。

幸雄さんが1年前に、二代目として継いでからは、株式会社

**▼水曜定休 ▼1時30分～1時00分(LO) 1時30分閉店**

**パーラーつるや【営業スケジュール】**

皆様のご来店を心よりお待ちしています。

「相川も人が減つてているけれど、できることがあれば何でもやつていきたい。物価高騰とか色々あるけれど、今はとにかく長く続けていきたいんです。自分にはこれしかないので。」と話していた幸雄さん。創業から半世紀。"腹いっぱいの幸せ"を届ける湯気の向こうに、今日も幸雄さんの笑顔が広がります。

(地域おこし協力隊 伊藤)



二代目店主の真藤幸雄さん



居心地よく会話を弾む店内

# 一相川でしか買えない特別な一本！ 金鶴「金の熟成酒」誕生!!

「相川でしか買えないお土産を作りたい！」そんな想いから金繼（旧一般社団法人相川車座）が三年前にスタートしたプロジェクトが、ついに形になりました。相川で親しまれている地酒「金鶴」とのコラボレー



ションによって生まれた三年熟成酒『金の熟成酒』が、10月1日に発売されました！「相川を盛り上げるためなら」と金繼の声掛けに金鶴さんも快くご協力いただき、じつくり三年間熟成された特別な一本が完成。このお酒は、相川の酒販店さんでしか買えません！

佐渡汽船や金鶴本店でも手に入らない、まさに相川限定の地酒。芳醇でまろやかな味わいの中に、三年の時が生んだ深みと余韻。金鶴ファンの方にも、新しい発見と感動をお届けできる仕上がりとなっています。この「金の熟成酒」を、相川の新しい名物として育てていきたいと思っています。

ぜひ、島外のご家族やご友人にもご紹介ください。そして一緒に、相川の魅力を広げていきましょう。

(金繼  
新保)

## あいかわ道草話

### ♪与謝野寛・晶子が詠んだ外海府♪

昭和9年（1934年）11月1日、与謝野寛は3度目、晶子は2度目の佐渡でした。海は穏やかで、3時間半の航程も苦にならなかつたようです。その日は、畠野の歌人渡辺湖畔宅で鬼太鼓演会は、強風に吹かれるガラス戸の音でよく聞き取れなかつたとか。講演を終えた夫妻は、相川へ。寛は、午後3時から相

川中学校、晶子は午後4時から鉱山俱楽部でそれ講演をして、10年前に泊まつた高田屋旅館に入りました。3日は明治節（明治天皇誕生日）。暴風雨の中、鹿野浦トンネル開通もあって、晶子が念願していた外海府へ足を延ばすことになりました。自動車3台を連ね、三浦常山や湖畔なども同行しました。高千鉱山などを見学した後、大倉まで向かいます。大倉と矢柄の間には、大倉ワシリという難所が立ちはだかりおり、相川からの定期乗合バスも、ここで折り返していま

した。浜辺に下りた夫妻は、時雨の合間に虹を見たのでしょうか。晶子は「石名、小田行けどもわれを見て消えず寂しきならん北海の虹」と詠みます。寛も「外海府三ときある間に海変わる薄日むら雨あらし夕虹」。さらに、「岩多き外の海府を白くして浪よる揚がる裂くるひるがる」とも。そして、晶子は「風烈（かぜきび）し大倉走り走らずて外の海府を此處より帰る」と詠ました。ところが、北狄の坂道でがけ崩れがあり、立ち往生。相川の関係者に車の出迎えを依頼し、一行は崩れた岩石を避けながら坂道を歩きました。この時、晶子は「北狄海の花こそ盛りなれ両津に見しさりなしの波」、寛は「雨もまた岩越す浪のひびきしぬ佐渡の海府の烈風の丘」と詠みました。



大倉走り(ワシリ)は明治45年(1912年)下相川の者が請負い、隧道を開削。人の行き交いは出来た。